

SSSB News Letter

No. 17 Sept. 1998

第30回 種生物学シンポジウムのご案内 日程・形式の変更あり. ご注意を!	2
種生物学会総会報告 「新執行部決まる」.....	4
庶務報告	4
会計報告	5
編集委員会報告	6
種生物学会の21世紀を展望して 学会会長 矢原徹一	7
PSBの編集状況 英文誌編集委員長 河野昭一	8
種生物学研究の新編集方針/単行本化 和文誌編集委員長 川窪伸光	8
会費納入のお願い	9
会員異動	10
ネイチャスタディ・バックナンバーのご案内	11
種生物学シンポジウム参加申し込み用紙	12

種生物学会ニュースレター
種生物学会和文誌編集委員会編集
The Society for the Study of Species Biology

第30回

種生物学シンポジウムのご案内

日程，形式が変更されました．ご注意ください！

今回のシンポジウムでは，従来から問題を指摘されていた開催時期を，試行的に12月にしました。また会場も，限られた地域でしか開催できない温泉合宿方式を再検討し，シンポは鹿児島大学理学部（大学周辺は温泉だらけ）で行い，参加者は分宿することにしました。また従来のような宴会式の懇親会はやめ，懇親会をポスターセッションと組み合わせたアカデミックで充実した議論ができるものにする予定です。ポスター発表に奮ってご参加ください。

1. 開催期間 12月18日（金） - 20日（日）
2. 場所 鹿児島大学理学部 251 教室
鹿児島市郡元 1-21-35
（電話：099-285-8166 堀田研究室 099-285-8150 事務室）

3. プログラム

12月18日（金）

13:00～ 役員会（編集委員会・幹事会・評議会） 鹿児島大学理学部会議室

17:00～ プレシンポ 鹿児島大学理学部 251 教室

- アジアにおけるアリ類のイベントリー
山根正気（鹿児島大学理学部）

12月19日（土）

9:00～ シンポジウム1 鹿児島大学理学部 251 教室

- 森林植物の繁殖構造と集団分化 ◇ 分子マーカーの有効性と限界
オーガナイザー：西脇亜也（東北大）・綿野泰行（金沢大）
- ・ホウノキ集団における自殖と近交弱勢（石田 清・森林総研北海道）
- ・ゲノム情報を用いた遺伝的多様性研究（津村義彦・森林総研）
- ・AFLP 分析を用いた森林構造の解明（陶山佳久・筑波大菅平実験センター）
- ・マイクロサテライトを用いた樹木の交配様式の解明（井鷲裕司・森林総研関西）
- ・ブナのアロザイムとミトコンドリア DNA の種内変異と系統地理学的構造（戸丸信弘・名大農）
- ・ハイマツ-キタゴヨウ間におけるオルガネラ DNA の遺伝子浸透（綿野泰行・金沢大理）
- コメント：分子マーカーを利用した研究の落とし穴（村上哲明・京大理）

16:00～ 総会

17:00～ ポスターセッション + 懇親会（懇親会会場）

12月20日(日)

9:00～ シンポジウム2 鹿児島大学理学部 251 教室

●「送粉生物学の新展開」

オーガナイザー：鈴木和雄(山口県立大)・井上 健(信州大)

◎第1部「送粉昆虫による植物集団の選択」

- ・はじめに(鈴木和雄・山口県立大)
- ・異型花柱性植物における柱頭の高さに対する自然選択(西廣 淳・筑波大生物系)
- ・ママコナへ訪花する3種のマルハナバチの送粉効果の違い(日江井香弥子・東大総合文化広域)
- ・トリカブト属の花形態における適応的意義(福田陽子・都立大理)
- ・ハナバチ媒花における花冠形態の進化(小林史郎・東大理生物多様性)

◎第2部「植物の系統進化と適応放散への送粉昆虫の役割」

- ・はじめに(井上 健・信大理)
- ・植物の適応放散と花の香り(三宅 崇・九大理)
- ・送粉昆虫によるラン科植物の適応と進化(杉浦直人・熊大)
- ・スミレの種分化は送粉昆虫によってもたらされたか?(藤原直子・信大理)

○コメント：送粉生物学と種間比較 ◇系統樹の使いみち(粕谷英一・九大理)

4. 参加申し込み・問い合わせ先

参加希望者は11月20日までに下記宛に、12ページの参加申込用紙をFAXもしくはご郵送ください。また下記のe-mailでも参加を受け付けます。

ポスター発表の申し込みもよろしくお願ひします。ポスター発表は懇親会とセットですから充実した議論が期待できます。

812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部生態学研究室 石井いずみ
TEL 092-642-2622 FAX 092-642-2645
E-mail iishiscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

5. 参加費

一般 5000円 学生 2500円

懇親会費は、別途 一般 4000円 学生 2000円

参加費・懇親会費とも、当日会場でお支払いください。

6. 交通・宿泊案内

鹿児島大学・理学部は鹿児島市市街の南部に位置する「郡元キャンパス」にあります。鹿児島市の交通網は充実しており、鹿大・理学部へは、JRの西鹿児島駅(注：鹿児島駅は別)を起点として、市電(路面電車)、バス(市営、鹿児島交通など)、タクシーが利用できます。いずれの交通手段を用いても、西鹿児島駅から15分以内にはキャンパスに到達します。最も便利なのは、市電で、「西鹿児島駅前」から乗車し、「工学部前」で降車できます(注：鹿児島大学は、水産学部と医学部が別キャンパスにあり、タクシーをご利用の際は「郡元キャンパス」とご指定ください)。鹿児島空港からは、鹿児島南国交通か林田交通バスのエアポートシャトルが20分に1本の割合で運行しており、空港から西鹿児島駅まで、ご利用いただけます。

宿泊については、参加お申し込みの方へ、改めてご案内いたします。

種生物学会 総会報告



1998年2月28日
第29回種生物学シンポジウム会場
蔵王ハイツ

矢原徹一新会長の総会開催の宣言ののち、議長に林俊彦氏を選出、庶務報告、会計報告、編集委員会報告の順に進行した。

1. 庶務報告

工藤洋前庶務担当から以下の6項目について報告があり、了承された。

1) 学術会議会員の推薦結果は、植物学会ほか4学会推薦の岩槻邦男氏に決まり、同氏が就任した。[1996年12月に日本学術会議より、第17期会員(植物科学関連研究連絡委員)候補者1名、推薦人1名、推薦予備人1名の指名の依頼があった。当会では、候補者に河野昭一氏(PSB編集委員長:京都大学)を選出、推薦人と推薦予備人は会長と庶務で選定し、推薦人には小野幹雄氏(前会長:東京国立大学)、推薦予備人には益山樹生氏(幹事:東京女子大学)を1997年2月に届け出た。]

2) 植物分類学関連学会連絡会での活動協力
日本植物学会大会(千葉:東邦大学)でのシンポジウム「種多様性の認識はどこまで進んでいるのか」の共催団体として参加し、当会からは井上健氏が合同シンポジウム担当者として活動した。会員名簿の共同作製に関しては、9年度は当会の選挙の年に当たり、当会では名簿をそのまま選挙人名簿として使用

している事情から、参加を見送った。将来の合同名簿への参加については、新幹事会でさらに検討していく予定である。

植物分類学関連学会連絡会での合意を受けて、日本植物分類学会・植物分類地理学会・植物地理分類学会・日本せん苔類学会・地衣類研究会と雑誌の交換を開始した。現在、送付されてきた交換雑誌は庶務幹事が管理している。

3) 会長・副会長・幹事選挙の報告

9月の植物学会の時に開かれた幹事会において選挙管理委員として小川潔氏(東京学芸大)・可知直毅氏(都立大)・田中教之氏(帝京大)が承認された。11月17日公示、12月11日開票の日程で選挙が行われた。以下の結果が選挙管理委員会より報告された。

総投票数 107・有効投票数 107

次期会長・副会長・幹事

(任期 1998年1月から2000年12月)

会長	矢原徹一
副会長	森田竜義
幹事 北海道	工藤岳
幹事 東北	西脇亜也
幹事 関東	伊藤元巳
幹事 関東	大原雅
幹事 関東	鷲谷いづみ
幹事 中部	佐藤利幸
幹事 中部	木下栄一郎
幹事 近畿	加藤真
幹事 近畿	湯本貴和
幹事 近畿	角野康郎
幹事 中国・四国	中越信和
幹事 中国・四国	国井秀伸
幹事 九州・沖縄	牧雅之

中部地区において当選者辞退による次点者の繰り上がり有一名あった。上記は最終決定された新幹事リストである。

選挙公示文において、任期が1998年4月から2001年3月となっていた。しかし、種生物

学会は1月1日から12月31日が年度単位となっており、選挙後初年度だけは引き継ぎのため、シンポジウムの幹事会まで旧役員がそのまま運営する事になっていた。したがって、任期は1998年1月から2000年12月が正しいこととなる。幹事会において正式に訂正が承認された。

4) 庶務幹事・会計幹事交代

選挙にともない、新庶務幹事と新会計幹事が会長より以下のように、指名された。

庶務幹事 増田理子 (愛媛大)

会計幹事 西野貴子 (大阪府大)

5) 種生物学研究(和文誌)編集委員長の交代

種生物学研究編集委員会にて新編集委員長が選ばれた。

和文誌編集委員長 川窪伸光 (岐阜大)

6) 次期シンポジウム開催予定地

西日本方面で開催する予定である。

2. 会計報告

会計監査、小菅桂子・鈴木武両氏により監査が行われ、以下のように承認されました。

1997年度収支決算報告書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	3,199,341	印刷費	2,429,262
購読料	666,942	PSB vol.11(2-3)	1,001,160
バックナンバー	51,284	PSB vol.12(1)	717,150
別刷り	550,096	種生物研究 20	468,912
預金利子	2,363	News letter 14	16,909
雑費	5,649	封筒	92,831
		名簿	132,300
		通信費	321,709
		会誌発送 vol.11,20	100,434
		会誌発送 vol.12(1)	71,685
		名簿アンケート	37,000
		News14& 名簿発送	112,590
		事務費	139,817
		和文誌編集	19,410
		英文誌編集	82,711
		その他	37,696
		英文誌編集事務補助謝金	557,960
		英文校閲	40,500
		シンポジウム補助金	100,000
		雑費	37,802
小計	4,475,675	小計	3,627,050
前年度繰越金	903,555	次年度繰越金	1,752,180
合計	5,379,230	合計	5,379,230

新年度予算が以下のように提案され承認されました。

1998年度 予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費（1998年分）国内	3,143,000	印刷費	
会費（未納分）	1,015,000	PSB Vol.12(2-3)	1,000,000
購読料	650,000	PSB Vol.13(1)	700,000
バックナンバー	50,000	PSB Vol.13(2)	700,000
別刷り	500,000	PSB Vol.13(3)	700,000
預金利子	3,000	種生物研究 21	450,000
		種生物研究 22	450,000
		News Letter No.15,16	40,000
		封筒	90,000
		会誌発送	400,000
		事務費	
		和文誌編集	40,000
		英文誌編集	160,000
		その他	40,000
		英文誌編集事務補助謝金	750,000
		シンポジウム補助金	100,000
		自然史学会連同上納金	20,000
		雑費	10,000
小計	5,361,000	小計	5,650,000
前年度繰越金	1,752,180	次年度繰越金	1,463,180
合計	7,113,180	合計	7,113,180

3. 編集委員会報告

1) 英文誌（PSB）編集委員会

河野昭一編集委員長から、PSBの出版、投稿・審査状況について説明があり、また国際出版業者委託に関する説明もあった。英文誌編集委員会では、この業者委託に関しては、学会の活性化と国際化を考慮し、合意が得られており、学会全体の承認がぜひ必要な段階に至っている。

[全学会員には既に、「種生物学会英文誌 Plant Species Biologyの国際出版業者委託に関するQ&A」と題する文書が郵送され、十分な説明が行われている。]

2) 和文誌（種生物学研究・ニュースレター）編集委員会

川窪伸光新編集委員長から、和文誌編集委員の新体制（以下）の紹介があった。

工藤 岳（北海道大学）
 酒井聡樹（東北大学）
 西脇亜也（東北大学）
 横山 潤（東北大学）
 綿野泰之（金沢大学）
 大原 雅（東京大学）
 工藤 洋（東京都立大学）
 大橋一晴（九州大学）
 三島美佐子（九州大学）

種生物学会の 21世紀を展望して



種生物学会会長 矢原徹一

私が大学院生としてはじめて「植物実験分類学シンポジウム」（現在の種生物学シンポジウム）に参加したころ、シンポジウムの参加者の大半は大学院生・ODでした。「植物実験分類学シンポジウム」は植物の集団・種レベルの新しい研究の発展を学ぶことのできるほとんど唯一の場であり、その記録を収めた「種生物学研究」は大学院生にとって実に貴重な情報源でした。

その後20年あまりを経て、種生物学会が置かれている状況は大きく変化しました。第一に、関連分野の情報の量が飛躍的に増大し、「種生物学シンポジウム」や「種生物学研究」以外にもさまざまな情報源が利用できるようになりました。第二に、海外の雑誌に投稿することが当たり前になりました。第三に、会員の平均年齢が高まり、学生会員はごく一部になっています。

本学会の最大の特色は、分類学・生態学・遺伝学・育種学・雑草学・林学などさまざまな分野の研究者が交流できる点にあります。集団・種レベルの今後の研究の発展にとって、このような異分野交流は必須です。この点での本学会の存在意義は今なお健在であると考えます。

しかし、上記のような状況下で、本学会が会員にとって魅力的な存在であり続けるためには、大きな改革が必要とされていると考えます。そこで、以下のような改革を進めようとしています。

(1) Plant Species Biologyの国際化

Blackwell社に編集業務を委託し、次年度から国際化する方向で準備が進行中です。この点については、河野編集委員長の記事をご参照ください。

(2) 「種生物学研究」の刷新

和文誌についても、出版社に編集業務を委託し、従来の雑誌スタイルから、「単行本」のスタイルに模様替えをします。「種生物学シンポジウムの記録」という伝統をより充実させ、従来以上に魅力的な会誌をめざします。この点については川窪編集委員長の記事をご参照ください。

(3) ポスターセッションの開催

この点については、賛否両論がありますが、「分野間交流」という目的を実現する手段としては、一つの有効な方法ではないかと思えます。次回のシンポジウムでは、懇親会を簡素化し、懇親会と並行してポスターセッションを開催してみる考えです。

(4) 国際シンポジウムの開催

多くの会員にとって、日本語によるシンポジウムと和文誌は非常に重要な価値があり、それらの充実を欠かせません。しかし同時に、若い世代の研究者を育てるという観点からすれば、国際シンポジウムの開催にも重要な意義があります。毎年開催はもちろん無理ですが、節目には国際シンポジウムを開催して会員が海外のアクティブな研究者と交流できる場を作りたいと考えています。

(5) ニュースレターの刷新・電子化

和文誌がストックとしての情報を提供するのに対して、ニュースレターはフローとしての情報を提供するものです。

フローとしての情報提供は、電子化が進んでいます。本学会でも、メールによる情報提供の準備を進めています。しかしメールを利用しない会員も少なくない現状では、印刷されたニュースレターについても誌面の改善をはかりたいと思います。

(6) 学生会費の値下げ

学生会員が30名強という現状は、早急に改善をはかる必要があります。昨年の総会で、学生会費を値下げし、学生会員拡大をはかるべきだという意見を述べました。学生会費を1,000円値下げしても、30,000円程度しか減収しません。この状況では、会費を値下げして、会員拡大をはかる方が良いと考えます。幹事会でご審議いただいた上で、この方向で学生会員の拡大をはかりたいと思います。

本学会の将来を考えると、若手にとってどれだけ魅力のある存在かという視点が常に大切だと思います。幸い、シンポジウム自体は学生の参加も多く、若手にとって依然として魅力的なものだと思います。今後は上記6点での改革を進め、いっそう魅力的な学会となるよう、努力していきたいと思ひます。

PSB
Plant Species Biology

英文誌編集委員長

河野昭一

英文誌編集委員会では、基本的に、前回会員各位にお知らせした改革の路線に沿って、Blackwell社との交渉を進めています。

10月7日に京都で契約条件等のつめをBlackwell社のJulianさん、Managing Editorとすることになっており、予定どおり1999年スタートを目指しています。

PSBでは、目下、Regular articleやSpecial issueのテーマ、寄稿者、Review paperなどの募集をしています。

新しくなるPSBは以前にもまして国際的に引用される雑誌になるはずで、また、英文誌編集委員会では、投稿論文に対して誠意

をもって対応しており、投稿なされば、論文審査の段階で、様々な有用情報が著者に伝わるようにしています。現在、英語論文を執筆中の方は、新PSBに掲載される利点をご理解いただき、ぜひともPSBへの投稿を今一度ご検討ください。

投稿準備原稿、Regular articleやSpecial issueのテーマなどのアイデアをお持ちの方は、下記に是非ご連絡ください。

英文誌編集委員長

河野昭一

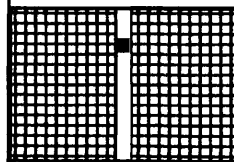
京都大学理学部植物学教室

電話：075-753-4131

FAX：075-753-4145

e-mail：k53223@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

種生物学研究の新編集方針 単行本化



和文誌編集委員長

川窪伸光

告白します。私は和文誌「種生物学研究」を読んでこの道に入りました。しかし最近の同誌をあまり読んでおらず、発行自体から再検討すべき時期に来ている思っていました。そこで私たち和文誌編集委員会では、「種生物学研究」自体の出版を維持すべきであるか？我々、学会員に和文誌は必要なのか？という根本的課題から議論をスタートさせ、大量の意見文書の交換を繰り返してきました。そして、「種生物学研究」は存続させるが、スタイルは大幅に改革する必要があります。単行本化すべきという結論に至りました。その顛末と現状をここでは簡単に述べます。詳しくは次回総会にて説明する予定です。

●最近の和文誌の主要な問題点：かつての「種生物学研究」に比べ、最近の同誌の内容濃度は、やや薄くなる傾向がありました（ここ2号は山口旧編集委員長の格段の努力によって、特集や総説などを企画され充実していたが）。この内容

濃度の低下の主要因は、「種生物学研究」という出版媒体が、シンポジウムの講演者の方々にとって、充実した原稿を書きにくい媒体となってしまったことがあげられると思います。実際、講演者からの原稿は集まらなくなり、仮に原稿を頂いても内容は要旨的になりがちでした。

周知の通り、「種生物学研究」の魅力は、シンポジウム内容が臨場感豊かに紙面に再現されることにありました。ところが、最近のシンポ講演者、特にDr取得前後の若手にとって、シンポジウムで講演した内容の総てを、「種生物学研究」に素直に活字化できません。なぜなら、学会誌の体裁の和文誌には、プライオリティが心配で、発表内容をつっこんで書けないからです（残念ながら、和文論文の業績評価は著しく低く、若手の多くは英語の原著論文の執筆を指導される）。特にアクティブな若手は、シンポで未発表データまでを含めて、さまざまな図表を駆使し講演します（そこが面白い）。しかしながら、和文誌が学会誌的体裁をとっているかぎり、要旨を提出せざるおえない事情が、講演者にはあるのです。

●編集出版の新方針：そこで編集委員会が到達した結論は、「種生物学研究」の単行本化です。これは、私たちの和文誌を、一般書店の店頭に並び、学会員以外も気軽に購入できる本にすることを意味します（当然、学会員には従来通り、郵送配布されます）。

読み手と書き手の双方にメリットのある印刷媒体とは何か？の結論としての単行本化です。読み手には、かつての「種生物学研究」の魅力の復活を、そして書き手には、「著書」と評価される業績の提供を目指しています。

編集委員会は、新執筆要領を作成し、現在は、前回のシンポの1日分「繁殖生物学の新しい潮流」の講演者を中心として執筆を依頼し、講演者の方々には快く執筆を了解して頂いています。なお出版社は、文一総合出版を予定しており、原稿の査読・修正など基本編集は当編集委員会、体裁・出版・販売は出版社側が中心になる予定です。

●種生物学会は、かつて、生物進化を核にして、分類学・遺伝学・生態学が正三角形のように関係しあう議論ができる唯一の学会でした。そして、学会のシンポジウムの内容は「種生物学研究」となり、ひろく読まれ（学生の頃、教員や先輩に読むのを必ず薦められた）、また学会の個性の象徴的存在でもありました。和文誌編集委員会は、体裁こそ変化させますが、「種生物学研究」が魅力ある出版物であるようにと願っています。

会費納入のお願い

種生物学会では年会費を前納制でいただいております。1998年度の会費は、一般会員8,000円、学生会員5,000円です。

納入状況は、会誌発送時の宛名ラベルの右下に「一数字」という形でお知らせしております。例えば「-98」とあれば1998年度分までの会費が納入済みであることを示しています。「97+2000」となっていた場合、1997年度までは完納いただいておりますが1998年度分は2,000円しかお支払いいただけていないことを意味します。よって1998年度会費の不足分の納入をお願いします（この場合、一般会員ならば6,000円、学生会員ならば3,000円となります）。数字が97以下の方は1998年度会費分までの金額を以下の口座にお振り込みください。

会費を3年以上滞納されている方は除名の対象となりますので、御注意ください。

なお今回のラベルに記しました納入状況は8月末日現在までの入金です。入れ違いで納入いただきました場合には御容赦ください。

郵便振替番号：01030-3-21704
口座名義：種生物学会

御不明な点などございましたら、下記まで御連絡ください。

会計幹事 西野貴子

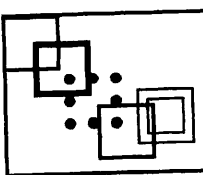
〒812-0053 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部生態科学講座 気付

Facsimile: 092-642-2645 (学科共通)

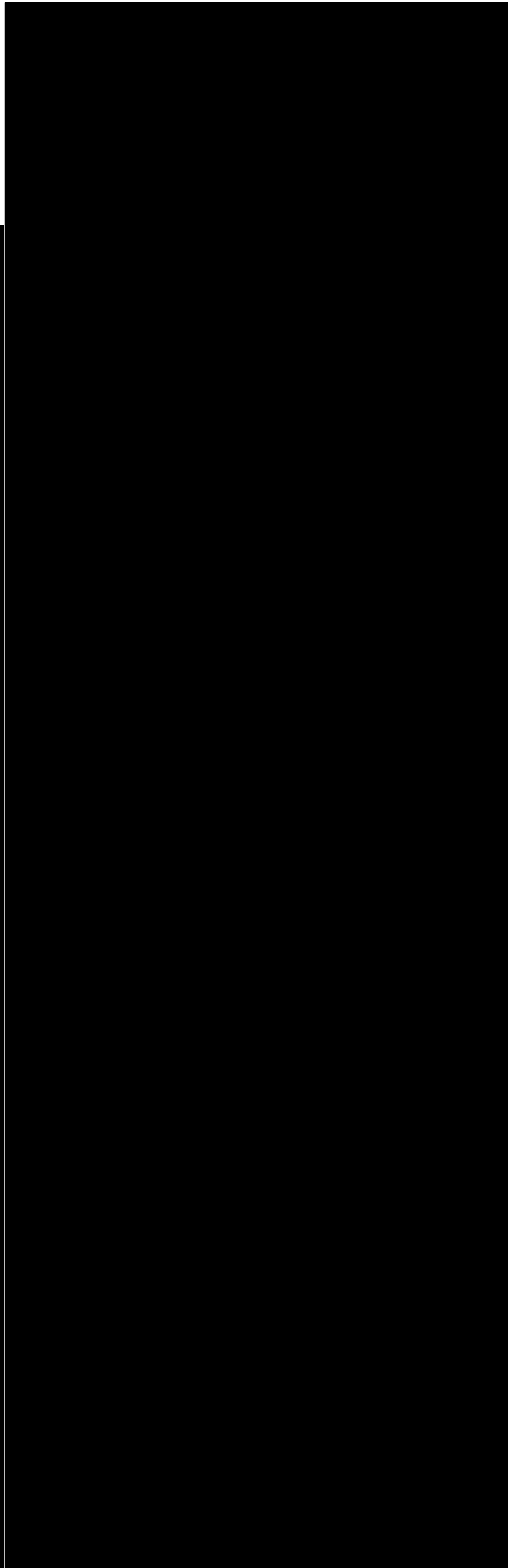
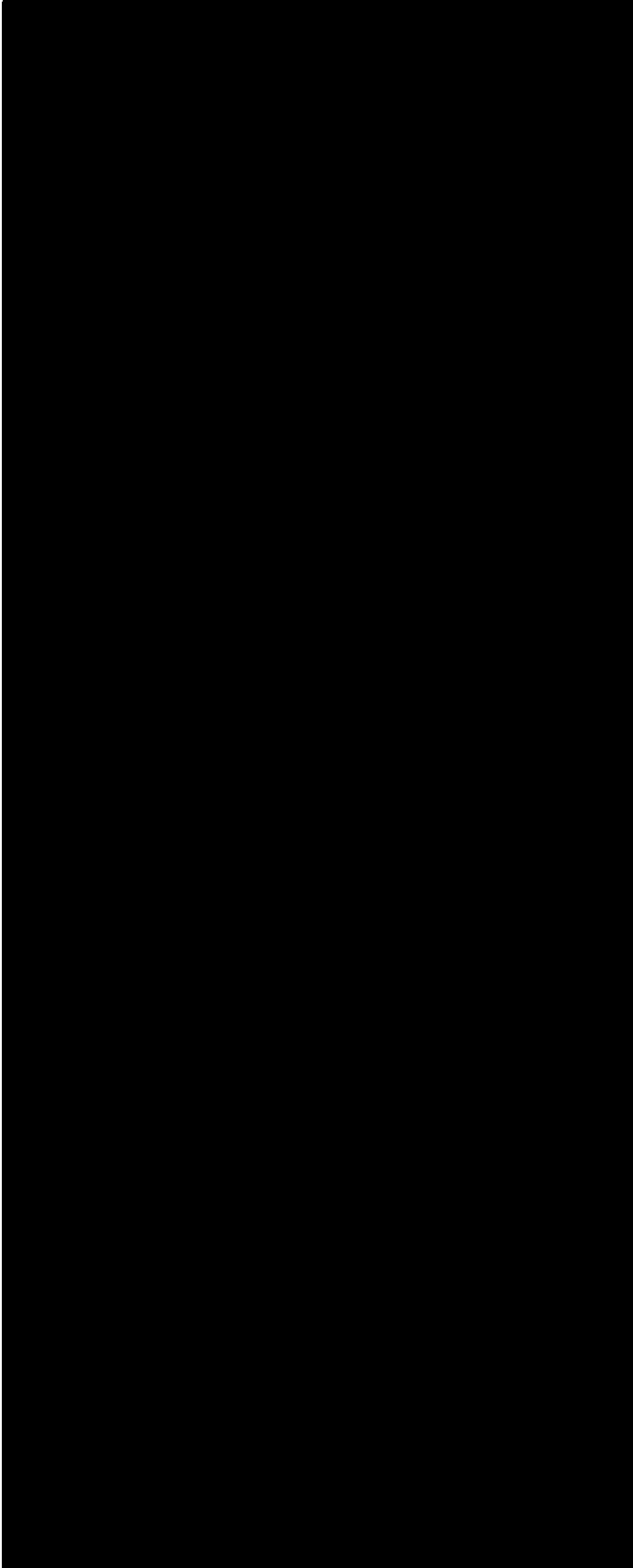
nishino@el.cias.osakafu-u.ac.jp

(郵便、ファックスの場合、1999年3月までは上記に御連絡ください)



会員異動

新入会



大阪市立自然史博物館友の会
 ネイチャスタディ (Nature Study)
 バックナンバー限定 50 セット
 特価販売のご案内

大阪市立自然史博物館友の会発行の月刊誌「Nature Study」バックナンバーの特価販売のご案内を申し上げます(1970年代発行の巻号をそろえるのはこれが最後のチャンスです。是非この機会にお求め下さい。数に限りがありますので、ご注文はお早めにお申し付け下さい)。

【限定 50 セット販売の内容と価格】

● 17 巻～43 巻 (1971～97 年) の 27 巻セット：
 (各巻 12 号、合計 324 号) 定価 97,200 円のところ
 を 個人購入：30,000 円(約 70% off!) 機関購入：
 40,000 円(約 60% off!) どちらも郵送料込みの価
 格です。

《以下の特典付録があります》

★特典 1：9 巻～10 巻 (1963～64 年) (各巻 12
 号合計 24 号、定価 7200 円) を無料でおつけしま
 す。★特典 2：総目次 1・2 (定価 500 円) を無
 料でおつけします。

「Nature Study」は、1955 年に友の会の機関誌と
 して創刊され、自然史科学に関する様々な話題を
 幅広く掲載する普及誌として現在も継続発行され
 ております。生物学、地学、古生物学などの調査
 研究の成果・総説・解説の他、大阪を中心とした
 様々な生物群の観察・採集などの記録報告が掲載
 されており、自然史科学の文献としても価値があ
 ります。総目次の発行を機会に以下の巻号セット
 についての特価販売を行いますので、ご案内申し
 上げます。なお、限定 50 セットですので、ご注文
 が販売数に達し次第締め切らせていただきます。

ご注意：一部に売り切れた号があり (348 号の
 うち約 10 号)、これらの号はコピーになります。こ
 んご承ください。また、上記セット以外での特価販
 売はいたしません。

【お申し込み方法】お申し込みから納品までは
 約 1 ヶ月ほどかかります。あらかじめご了承さ
 さい。

1. 個人購入の場合

郵便振替で代金 3 万円を添えてお申し込みくだ
 さい。通信欄に「Nature Study 特価販売個人購入」
 と明記してください。なお、個人購入の受付は郵

便振替のみとさせていただきます。

郵便振替口座番号：00980-1-317961

加入者名：大阪市立自然史博物館友の会

2. 機関購入場合

封書で以下の事項をご記入のうえ、「友の会
 Nature Study 特価販売係り」までお申し込みくだ
 さい。申し込みの際にご記入いただく事項は、(甲)
 「Nature Study 特価販売機関購入」、(月)代金のお支
 払い方法とその時期 (郵便振替、銀行振込、現金
 等)、(火)代金お支払いに必要な書類についてのご
 指示 (見積書、納品書、請求書等の様式・記入方
 法の指示、書類に指定の様式がある場合はその用
 紙をご送付下さい)、(水)必要であれば納入方法等
 の指示) の 4 点です。

なお、1 巻～8 巻と 11 巻～16 巻は各巻とも約
 半数の号が売り切れていますので、在庫について
 は直接お問い合わせ下さい。販売価格は各号 300
 円です (送料別)。

備考：Nature Study は「自然史博物館友の会」
 の刊行物です。「自然史博物館」の刊行物ではな
 いので、交換や寄贈のご要望にはお応えできませ
 ん。ご了承下さい。

Nature Study のご購入方法：友の会にご入会く
 ださい。毎月 10 日頃に雑誌をお届けいたします。
 年会費 3,000 円です。通信欄に「新入会」と明記
 の上、郵便振替で「振替口座：00930-4-8576、加
 入者名：大阪市立自然史博物館友の会」へご送金
 ください。

〒546-0034

大阪市東住吉区長居公園 1-2-3

大阪市立自然史博物館友の会

電話：06-697-6221 (代表)

種生物学シンポジウム参加申し込み

参加申し込み・郵送・FAX・e-mail先：

812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学理学部生態学研究室 石井いずみ宛

TEL 092-642-2622 FAX 092-642-2645

E-mail iishiscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

なるべく、FAXもしくはe-mailで申し込んでいただければ幸いです
(e-mailでお申し込みの際は、形式は問いませんが、以下の内容を含む文面をお願いします)

氏名

所属

連絡先（住所・電話番号・あればe-mailアドレス）

連絡は 所属機関 自宅（Vで記入）

懇親会（ポスター発表会）に 参加する 参加しない（Vで記入）

ポスター発表 発表する しない（Vで記入）

題目（仮もOK）：

発表者（所属）：

編集兼発行人：501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学農学部多様性生物学 川窪伸光

印刷所：岐阜市 岐阜プリント

発行：812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部生態学教室内 種生物学会